

平成23年度耕作放棄地解消事例調査票

NO.

協議会名	益田市耕作放棄地対策協議会
平成21年度実施地区名	益田市匹見町紙祖
地区の農地面積	31a
うち耕作放棄地	21a
ほ場数	2
実証ほ対象面積	
地目	<input checked="" type="checkbox"/> 水田 畑 樹園地
色分け	緑 <input checked="" type="checkbox"/> 黄色
荒廃の程度・必要な作業	<input checked="" type="checkbox"/> 雑草繁茂 樹木侵入 <input checked="" type="checkbox"/> 人力作業 <input checked="" type="checkbox"/> 農業機械 <input checked="" type="checkbox"/> 重機 その他 ()
荒廃の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢化 <input checked="" type="checkbox"/> 労働力不足 後継者不在 鳥獣害 その他 ()
取組主体	宮川 純平
実施期間	再生作業：H21. 10. 10～H22. 2. 23
実施事業費	全事業費(380,987) 交付金(270,000) 県費(0) 市町村費(0) その他()
作業内容	<input checked="" type="checkbox"/> 刈払 <input checked="" type="checkbox"/> 整地 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌改良 <input checked="" type="checkbox"/> 定植 用排水整備 客土 <input checked="" type="checkbox"/> その他(抜根)
導入作物	わさび
出荷先	J A西いわみ
取組のきっかけ	新規就農にあたって経営ほ場の確保のため
調整経緯	地域内の知人より地主を紹介され、本人と直接賃貸の交渉を行った。
現在の状況	平成21年度に農地を再生しわさびの定植を行った。平成22年春ころは順調に生育していたが、夏の猛暑と日照りにより軟腐病が発生し、圃場の7割に被害が出た。また秋にはイノシシがミミズを食べるため畑を掘り起した。状態のよいわさびを植え直したが度重なる被害に栽培量は激減した。平成23年春にわさびの花芽、夏までに茎や葉を収穫しJ A西いわみに出荷したがその量はわずかであった。 平成23年秋に肥料投入等を行い、再びわさびの定植を実施した。
今後の計画	今後もわさび畑として農地を活用していく予定である。なお、連作障害の発生を回避するため、一時的に他の野菜を植え付けるか緑肥作物を栽培し畑にすき込み土壌づくりを行うことも考えている。 平成23年：秋にわさび苗の植付を実施 平成24年：秋にわさびの新葉を収穫、出荷 平成25年：春に花芽、夏までに葉、茎を収穫を予定 連続しての栽培は、連作障害が起こる可能性があるため、他の野菜を作付するか、緑肥作物を植えすき込みを行う。 秋にわさび苗の作付 平成26年：秋にわさびの新葉を収穫、出荷
その他	(現地写真)

調査対象地区は平成21年度実施地区（平成21年度報告書に記載の地区とする）

特に取り組みのきっかけ、調整経緯、現在の状況については、取り組み実施者から聞き取りをお願いします。

導入作物、出荷先は計画時ではなく今年度の作付状況等を基に記載願います。

現地写真は、再生までの写真と現在活用されている状況（栽培作物等）の写真を添付いただきますようお願いいたします。

平成 21 年度耕作放棄地再生利用対策事業実施ほ場

実施場所 : 益田市匹見町紙祖 (檜田・笹山)

取組主体 :

写真撮影時期 : 平成 22 年春

◎檜田



◎笹山

